

宇宙にとびだせ！

「星空を届けたい」

出張プラネタリウム、はじめました！」

高橋 真理子 文 早川 世詩男 絵 ほるぷ出版 (K440 タ)
目をあけたら、まんてんの星空。ここは、移動式
プラネタリウムの中。病院、被災地など、
星空を届けてあるく人のおはなし。

マップス 「惑星MAPS」

宇宙兄さんズ 文 誠文堂新光社 (K445 ワ)
もしも宇宙を旅したら？もしも宇宙で生活でき
たら？という疑問にお答えしちゃいます。

「人工知能と友だちに なれる？」

新井 紀子 監修 誠文堂新光社 (K007 ズ)
ニュースで話題になるAIや人工知能って
なに？AIは私たちの味方なのか？ライバル
なのか？AIについて考えてみよう。

「しっぽがない！」

犬塚 則久 文 大島 裕子 絵 福音館書店 (K481 イ)
どうして動物の仲間のヒトとコアラには
しっぽがないのかを、いぬやま先生と一緒に
しらべてみよう。

身近なふしぎ

戦争と平和

<戦争>って？ <平和>って？
あなたは、ということだと思いますか？

「この計画はひみつです」

ジョナ・ウィンター 文 ジャネット・ウィンター 絵
さくまゆみこ 訳 すずき出版 (K319 ウ)
アメリカの砂漠でひみつの計画がすすめられ
ました。計画が完成後、実験が成功してまもなく、
広島と長崎に原爆が落とされたのです。

「絵で読む広島の原爆」

那須 正幹 文 福音館書店 (K319 ナ)

「被爆者」 「被爆者 続」

会田 法行 写真・文 ポプラ社 (K319 ア)

「これから戦場に向かいます」

山本 美香 写真・文 ポプラ社 (K319 ヤ)
戦場で何が起きているかを伝える戦場ジャー
ナリスト。著者の山本美香さんは、シリアの戦
場で亡くなるまで、多くの戦場で取材を続けま
した。

「この本をかくして」

マーガレット・ワイルド 文 フレヤ・ブラッグウッド 絵
アーサー・ビナード 訳 岩崎書店 (Eブ)

爆弾が図書館にあたって、本はみんなこっぴ
みじんになった。でも、おとうさんとぼくは、
借りていた本を命がけで守ることにした。

おすすめの

ほん だ な

本 棚

小学5、6年生むけ

佐倉市立図書館

佐倉図書館	485-0106
志津図書館	488-0906
佐倉南図書館	483-3000

2019年版 (2019年7月発行)



「よみち3人修学旅行」

市川 朔久子 作 講談社 (K913 イチ)

小学6年の夏休みに親の仕事の都合で転校した天馬は、何の思い出もなく小学校を卒業した春休みに、ほぼ学校に来なかった風知に誘われ、クラスの人気者の柊と3人で旅行に行くことになりました。

「4ミリ同盟」

高樓 方子 作 福音館書店 (K913 タカ)

どうしても食べすにはいられない!という、<フラココノ実>なる果実を、なぜかまだ一度も食べたことがないと悩む主人公の、中年男性ポイト氏。ちょっと不思議で奇妙な物語。

「ほくの夏休み革命」

つちもと としえ 作 国土社 (K913 ツチ)

夏休みのはじまりに足をけがしてしまった誠也。助けてくれたのはゴミ屋敷にすむ変わり者のおじいさんだった。最初は、かかわりたくないと思っていた誠也だったけど…。片づけることで、自分の気持ちや生き方が変わっていくお話です。

「母さんが消えた夏」

キャロライン・アダーソン 作 講談社 (K933 ア)
もしも、お父さんやお母さんが、ずっと家にもどってこなかったら、君はどうする!?
6年生のカーティスは、5歳の弟と2人きり、こどもだけで生活しようとしたけれど…。



「ワンダー」

パラシオ 作 中井 はるの 訳 ほるぷ出版 (K933 パ)
オーガストは「ふつうじゃない顔」をもつ、ふつうの男の子。10歳ではじめて学校へ行くことに。まわりの男の子たちの反応は…。
続きとして「もうひとつのワンダー」があります。

「ぼくたち負け組クラブ」

アンドリュー・クレメンツ 作 講談社 (K933 ク)

アレックスは本好きの6年生。誰にも邪魔されずに本を読もうと読書クラブを作ります。だけどその名は「負け組クラブ」。いったいどうして?

「魔女がいっぱい」

ロアルド・ダール 作 評論社 (K933 ダ)

ほんものの魔女は、子どもが大きらいなんだ。そして、いつも子どもを消してしまおうと考えている。君のすぐ近くにいるかもしれない。気をつけて!

「落語ねこ」

赤羽 じゅんこ 作 文溪堂 (K913 アカ)
おじいちゃんからあずかったデブねこのクマハチ。じつはこのクマハチには、成仏できない落語家のユーレイがとりついているという、とんでもないヒミツがありました。

知っていますか?

かみ 「髪がなくなぐ物語」

別司 芳子 著 文研出版 (K369 ベ)

病気などで、髪の毛がなくなってしまった子どもたち。その心のケアのために、ウィッグ(かつら)がつくられます。そのためには、「ヘッドネーション」という、髪の毛の寄付が必要です。この本は、日本での活動についてくわしく書かれています。

「マイルール 自立のすすめ」

辰巳 渚 著 毎日新聞社 (K159 タ Y159 タ)

困ったことやわからない事があったらどうしてる?人に言われたことだけでなく、自分で決めて実行する。それが「マイルール」だ!

「光と音のない世界で」

池田 まき子 作 岩崎書店 (K369 イ)

目が見えず、耳も聞こえない。どんな世界か、想像できますか?福島智さんは、そんなハンディの中、勉強を続けて、大学院にまで進み、研究を続けた結果、東大の教授になりました。どんな思いで、どんな努力だったか、福島さんの物語。

想像してみよう